

あらかわ



ま ち づ く り 計 画

あらかわ地区まちづくり協議会



平成24年3月

もくじ

・まちづくりの目的及び背景	・・・・・・・・	1
・あらかわ地区の現状と課題	・・・・・・・・	3
《あらかわの自慢	・・・ 3 ~ 4》	
《あらかわの憂い	・・・ 5 ~ 6》	
・まちづくり計画	・・・・・・・・	7
《あらかわ地区まちづくり理念	・・・ 9》	
《計画のあらまし	・・・ 10 ~ 16》	
・あらかわ地区まちづくり計画マップ	・・・・・・・・	17
・あらかわ地区まちづくり協議会組織体制	・・・・・・・・	18

1. まちづくりの目的及び背景

- なぜ、今 まちづくりなのか？ -

平成20年4月、5つの市町村が合併し新しい村上市が誕生しました。この新生村上市がどんな市を目指すのか、それを実現させるためにはどうすればいいのかを、『第1次村上市総合計画』で定めています。

その総合計画では

まちづくりの基本理念を

- ” 守る ” 自然と伝統を守り、歴史と郷土を愛するまちをつくります
- ” 育む ” 人と文化を育み、ふれあいと活力のあるまちをつくります
- ” 輝く ” 暮らしやすい社会を築き、優しさで輝くまちをつくります

まちの将来像を

元気 “まち” 村上市

とし、豊かな自然や伝統・文化を守り、合併後の市民等の交流を大切にし、協調的で人情にあふれる豊かな人づくりに重点を置きながら、かつ活力があり元気に安全で安心して暮らせる地方田園都市を目指しています。

そして、「将来像」を実現するための重点的・戦略的に取り組むテーマに、

定住の里づくり

- 定住化戦略 -

と定め、重点戦略を推進していくための手法として『行財政改革の推進』と市民(団体・企業等を含む)・行政がともに歩む『市民協働のまちづくりの推進』を積極的に実施することとしています。

～「定住の里づくり」とは～

若者だけの定住化戦略ではなく、高齢者などにとっても安心して「終の棲家」となり得るなど、子どもから高齢者までの全ての者が、将来に向けて安心して暮らすことができ、また「この村上に住んで良かった」と思えるような誰もが誇れるようなまちづくりを目指したものです。

- なぜ、今までの行政主導によるまちづくりではなく
市民協働のまちづくりなのか？ -

理由1

地域性（地域資源や文化など）を大切にしたい！

海、山、川の豊かな自然環境に恵まれ、長い歴史と誇り高い文化を有し、多様性を持った特色ある旧5市町村が合併して誕生した村上市。市の面積は約1,174km²と新潟県の総面積のおよそ9.3%を占める、広大な市となりました。

様々な個性が詰まった広大なエリアで行政が行うまちづくりは、各地区のバランス・公平性を考慮するため、一律・画一的なものとなってしまいます。また、隅々まで目が行き届かない中で計画し実施するため、地域の特性を活かしたその地域にあったまちづくりが出来なくなってしまいます。



地域のことを一番よく知っている地域住民が主体となって、
地域づくりを実践することが必要です。

理由2

少子高齢化などから地域コミュニティを守りたい！

本格的な人口減少社会に突入した今日、私たちの村上市も少子高齢化や核家族化、過疎化が急激に進み、集落内の交流や人間関係が希薄になりつつあります。また、集落を支え守ってくれる若年層の減少は、地域コミュニティを守っていくために大切な地域の伝統行事などの継承が難しくなるだけでなく、集落そのものの維持に影響を及ぼす可能性があります。



自助・共助・公助

まずは、自分で出来ることは自分でやってみる（**自助**）

一人で出来ないことは、地域の人々が互いに助け合いながらやってみる（**共助**）

それでも解決できない問題は、行政が解決に乗り出す（**公助**）

理由3

行政主導のまちづくりは限界です！

今までのまちづくりは、行政が主導して計画を練り、運営をしてきました。

しかし、社会が成熟し、ここに住む私たちの暮らしも多様化し、今までにない様々な問題もでてきています。こうした状況の中で、きめ細やかな対応をするには、今までの行政主導の力だけでは充分ではありません。また、行政では手続きが複雑で、多様な住民の要望に対しタイムリーに対応することが難しいのが現状です。それに、財政状況をはじめ昨今の地方自治体を取り巻く環境も厳しいのが現状です。

2. あらかわ地区の現状と課題

あらかわ地区って素晴らしい！

当たり前が、実は他にはない宝物！！

あらかわの自慢1

貴重な鉄道遺産がある！

米坂線全線開通の2年後の昭和13年に、坂町駅に機関区が置かれました。最盛期には、約300人も職員の働き、羽越本線・米坂線を走る多くの蒸気機関車が行き交い、また、構内では貨物の入れ替え作業が昼夜行われていたり大いに賑わっていました。

その賑わいを見せていた機関区も平成11年に廃止となりましたが、今もSLに給水するための給水塔や県内に数カ所となってしまった現役で稼働する転車台が残っています。また、総合体育館脇には、坂町機関区に配置されていたデゴイチの愛称で親しまれているD51型蒸気機関車が保存されています。



あらかわの自慢2

平成の名水百選「荒川」が流れている！

平成20年に「平成の名水百選」に選定された母なる川「荒川」が流れています。この荒川は、字のごとく荒れ川として昭和42年の羽越水害をはじめ、幾多の水害を引き起こしてきました。しかし、古くから灌漑用水として「岩船産コシヒカリ」の生産に利用されているほか、春のサクラマス、夏の鮎、そして秋の鮭など私たちに多くの恵みをもたらしてくれています。



あらかわの自慢3

「あらかわ」が、子ども達の学びの場！

子ども達は、学校に居ながらにして農業体験が出来ます。その農業体験を指導してくれる人がいます。学校の帰り道、友達と季節を感じながら寄り道をしたり、小さな発見をしたりし、かけがえのない思い出づくりが出来ます。そんな子ども達を見守ってくれる人達がいます。魚釣りや虫取りなどの楽しみを与えてくれるとともに、厳しさや怖さ、そして身の守り方などを教えてくれる豊かな自然があります。

このあらかわ地区の環境が、子ども達にとってこれから人として生きていくために必要な様々な知識や経験、そして大切な財産を与えてくれます。



あらかわの自慢4

どこへ行くにも便利！

新光寺の県道脇に、「右はせきより米沢道 左は金谷より村上道」と刻まれた道標があります。江戸時代には年貢米の積み出しや商船の入港などで栄えた海老江湊がありました。

このように昔から交通の要衝地として発展してきた当地区では、今も3つの国道と高速道路の荒川胎内ICがあり、特急「いなほ」が停まる羽越本線坂町駅から米沢市とを結ぶ米坂線が伸びています。だから、車を運転する人もそうでない人も、北に行くにも南に行くにも、そして東に行くにもとても便利です。それに、冬の雪は周りの地域に比べて少ないので多くの人に移り住んできています。



あらかわの自慢5

篠笛を吹ける子ども達がいる！

金屋、下鍛冶屋、大津、坂町では獅子舞が、鳥屋、荒島、切田、佐々木では神楽舞がそれぞれの集落の夏祭りに舞われています。これらの舞い方については、以前から小学生も加わっていましたが、最近では、拍子方にも小学生が加わるようになり、多くの子ども達が篠笛をリコーダーのように吹けるまでになりました。せっかく吹けるようになった篠笛。お祭りの囃子だけでなく、他の曲も演奏できるようになったら、もっとすごいと思います。



あらかわの自慢6

小さな体に大きなパワー！

あらかわ地区は、東西10.5km、南北5kmの総面積36,71km²で、村上市の総面積の約3%と、村上市の中で一番小さく、のろしで地区内の情報伝達ができるほどコンパクトです。

このコンパクトなエリアの中に、県立病院や一般医院、歯科医院など充実した医療機関があります。また、総合体育館、温水プールや総合運動公園など充実した公共施設が整っています。そして、大型の商業施設が揃っているなど、自慢できる魅力がぎゅっと詰まった地区です。



見えないこと。気づかないこと。

そこに問題が潜んでいる！

あらかわの憂い1

過疎化や限界集落は、他人事ではない！

平成22年の国勢調査によると、村上市全体の人口は、66,445人と平成17年の調査より4,260人減少し、世帯数も273世帯減でした。

あらかわ地区は、前回調査より421人減(3.8%減)の10,684人と減少はしているものの、減少率は市平均の6.0%より低く、旧市町村の中で一番低い減少率でした。また、世帯数においては5地区の中で唯一増加しています。

このことから当地区は、村上市の中では比較的人が集まりやすく、定住しやすい地区であるといえます。

だからといって、安心していられる状況ではありません。

当地区の人口を年齢階層別に構成をみると(下表参照)、確実に65歳未満の人口が減少し反対に65歳以上の人口が増加しており、高齢化率も27.3%と全国平均の23%を上回っています。

また、地区全体では限界集落とされる高齢化率50%には、まだまだの数字ではありますが、集落単位で見ると、高齢化率が50%に迫る集落もあります。

限界集落は、当地区にとっても他人事ではありません。まだまだ先の話ではなく、先の話といえる今のうちから、集落の結束を強める取り組みが必要です。

	15歳未満	15歳以上 65歳未満	65歳以上
H12	1,770	7,168	2,617
H17	1,527	6,700	2,824
H22	1,360	6,397	2,920



あらかわの憂い2

時がたてば古くなる。使えば壊れる。

人間、何事も慣れてしまうと、在ることのありがたさを忘れてしまいます。感謝の気持ちが薄れてしまいます。

あらかわ地区には、よそにはない温水プールがあります。武道場や弓道場を備えた総合体育館があります。ただ、他地区より早く整備されたため老朽化が進んでおり、後から整備された施設と比べると古さが感じられます。また、大勢の方が利用する施設であるため損傷箇所も多くなっています。

財政状況が厳しい昨今、必要最小限の修繕を行うのが精一杯で、これから新しい物を造っていくことは難しいことです。使えなくなれば、その施設は廃止され、他の施設に統合される可能性が大きくなります。

そこで大切なことは、ある物を守り、工夫しながら有効に利用する方法を考えていくことではないでしょうか。

あらかわの憂い3

いそうで居ない。そして、経験がない。

あらかわ地区は、自然環境、住環境に恵まれ交通体系が整備された住みやすい地区です。

当地区は、行政エリアがコンパクトであり行政効率が良かったため、まちづくりにおいては行政が主体的に行ってきたし、行ってこれました。また、いろいろな面で住民の要望に応えることができました。

そのため、住民に危機意識が生まれることがなく、また、行政依存から抜け出せずにきたため、自分で考え主体的に行動するようなまちづくりを担える人材が育ってきませんでしたし、行政側でも必ずしも人づくりを行ってきたとはいえません。

それにこの地区では、これまでまちづくりに地区全体で取り組んだことがありませんでした。

そこで、今必要となってくるのが、住民の一人ひとりが地域を見つめ直すとともに、新しいまちづくりの方法を知り参加することです。

当地区が、ここに住む人にとってかけがえのない場所になるためには、すべての住民の協力が必要です。

あらかわの憂い4

全ての人・家庭が移動手段を持っているわけではない！

あらかわ地区は、自分で移動する手段を持っている人にとっては住みやすい便利な地区です。しかし、車の運転をしない人にとってはどうでしょうか。

以前は、駅前周辺にもスーパーがあり、また、集落の中に万屋よろずや的なお店がありました。しかし、大規模店の進出、競争、後継者問題等によって小規模な個人商店が廃業し、高齢者など車の運転が出来ない人達にとっては、食料品や生活必需品の買い物に困るという問題が生じています。

「買い物」というと医療や介護などと比べて生命にかかわる深刻な課題としてとらえにくいのですが、例えば高齢者が自由に買い物に行けなくなると、十分な食料品を購入することが出来ず、毎日の食生活においても栄養が偏ります。このように、健康に害を及ぼすおそれがあるにもかかわらず、「買い物」については、公的な制度が整備されていません。

これからますます高齢化が進み、また、核家族化が進むことで、買い物に困る人がこのあらかわ地区にも増えてきます。

そこで注目したいのは、以前は当地区にもあった移動販売のお店です。ありがたいことに当地区は、集落どうしそんなに離れていないので、いくつかの集落が共同でそれぞれの集落に設けた寄り合いステーションに販売車を巡回させる取り組みも解決策の一つかもしれません。

この地区に住んでいる人が幸せに暮らすためには、どうすればいいのか。今、考える必要があります。



3. まちづくり計画

あらかわ地区の未来について

みんなで想い・描き

そして、想いを形にするために行動を！

住民ひとりひとりが主人公です。

今回のまちづくりのキーワードは「協働」です。

これまでのまちづくりや、行政が主導し行ってきた活動では、行政も住民も互いに「出来ない」「しない」の言い訳として、形だけの「協働」で、行政は計画作りに住民代表の参加を求め、住民はそれで良しとしてきたくらいがあります。

しかし、今回は違います。住民と住民が、また、住民と行政が互いに力を合わせまちづくりを実践していく本当の意味での『市民協働のまちづくり』への取り組みなのです。

その協働のまちづくりの第一歩として、公募により集まった住民の手による計画づくりを実施しました。ワークショップ形式による幾たびの話し合いを重ね、あらかわ地区まちづくり計画の素案を完成させ、さらに懇談会等で寄せられた住民の意見を反映させた計画を完成させました。

この計画は、これから進めるあらかわ地区のまちづくりの道標^{みちしるべ}になるもので、当地区にとっては荒川町時代も含めて初の試みとなる、住民が主体となって計画づくりをするだけでなく、その後のまちづくりにおいても住民が主体的に参画する仕組みを盛り込んだものとなっています。

まちづくりの主人公は住民ひとりひとりです。あらかわ地区にある様々な課題。その課題をどう解決していくか、一緒に知恵を出し、一緒に汗をかいて、一緒に笑いながらがんばりましょう。



（まちづくりに寄せる住民の想い）

- ・子ども達が（将来）働けるまちづくり
- ・地場産業を売り込むまちづくり
- ・一次産業が元気なまち
- ・美味しい郷土料理を全国に！
- ・飲食店街にしたい
- ・地元産業を活性化させることで、働く場所を確保したい
- ・坂町駅前前の活性化を図る
- ・B級グルメの開発
- ・働く場所が近くにあり便利なまち
- ・交通要衝の利点を活かした！
- ・生活を支える経済活動が保障されたまちづくり

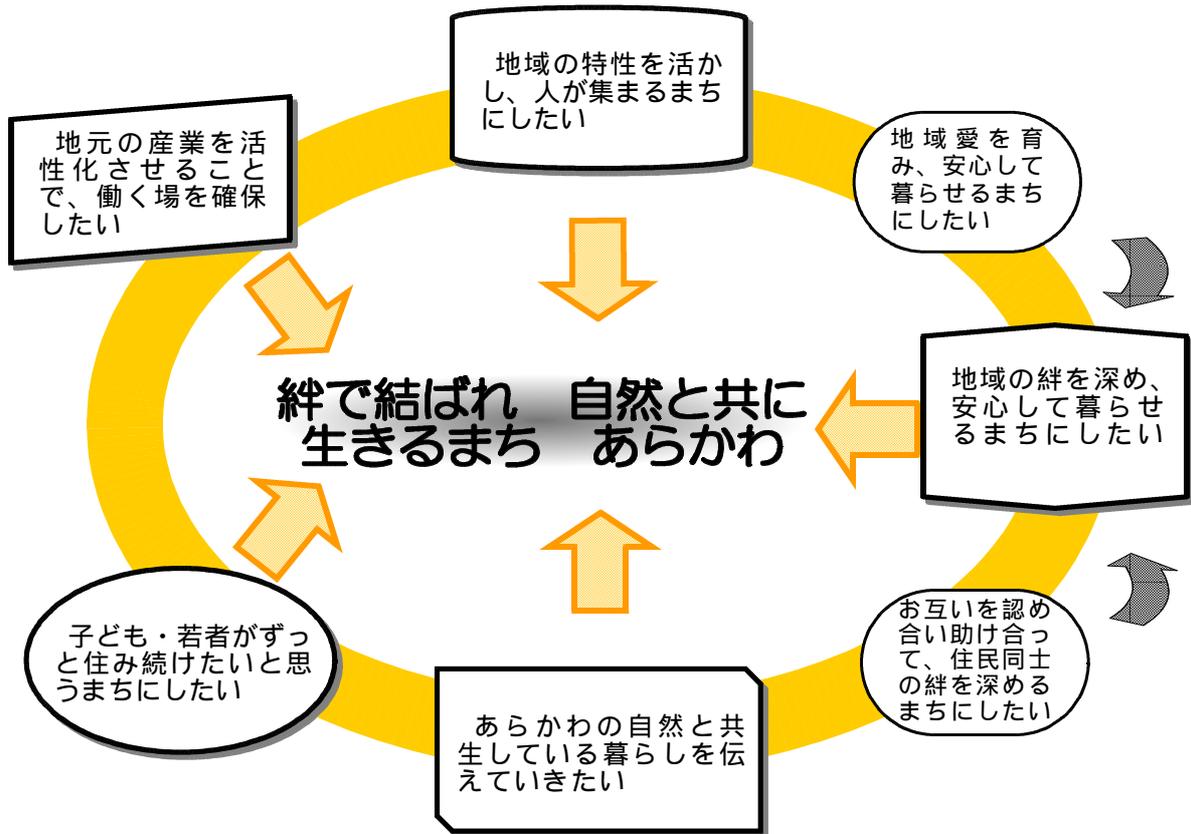
- ・少子高齢化にならないまち
- ・子ども・若者がずっと住み続けたいと思うまちにしたい
- ・活気のあるまちづくり（人口が増える）
- ・若者が住み続けたいと思うまちにしたい
- ・交通の便を利用した住居（ベッドタウンとして）

- ・113号線に道の駅をつくり集客に努める
- ・クロッカス日本一の維持
- ・地域の特性を活かし、人が集まるまちにしたい
- ・清流荒川の全国的PR
- ・坂町駅の活性化
- ・全国誇れる大花火大会
- ・市の南の玄関口として、産業・文化観光に積極的な取り組み

- ・運動公園をホテルが飛び交う公園に
- ・一年中花が咲き乱れる美しいまち
- ・心安らぐまち
- ・荒川が将来も清流であり続けるまち
- ・人と自然にやさしいまち
- ・「癒せる」場所をつくりたい
- ・荒川で小さい子どもも大人も泳いだり、自由に魚を釣ったりできる場所にしたい
- ・自然の中で遊べるまち
- ・高坪山の有効利用（森林インストラクターを掘り起こす。また、育てる。）
- ・川をきれいに
- ・歩道に季節の花を植えて花いっぱい運動を行う
- ・運動公園を有機的に活かそう（花・ハーブ等）

- ・違いがあって当たり前という見方
- ・ガキ大将のいる子ども達
- ・人と人とのつながりを大切に作るまちづくり
- ・自分をさらけ出せるまち
- ・伝統文化を通じ、若い人が自分の地域を維持していくまち
- ・伝統をみんなで誇れるまち
- ・生き生きと安心して暮らせるまち
- ・子どもはまち全体の宝というまちづくり
- ・高齢者が安心して住めるまち
- ・買い物に行くのに困らないようにしたい
- ・世代を超えてみんなで楽しめるまち
- ・便利なまち
- ・安心して子どもが育てられるまち

あらかわ地区まちづくり理念



(理念に寄せられた想い)

『絆』には、「人と人とのつながり」「お互いを支え合う」「安心して暮らせる住環境」、
『自然』には「この豊かな自然・環境を守りつつ、後生に伝えたい」「資源として活用したい」という想いが込められています。『絆』・『自然』を大切にしながら、いつまでも生活し暮らし続けたいという想いが込められています。



計画のあらまし

将来像	坂町駅を中心とした市街地では、商業機能が充実し、活気と賑わいのあるまちになっている
<p>JR坂町駅前や金屋商店街に代表される市街地は、あらかわ地区の賑わいを象徴する場所ですが、最近では商業施設が減り、賑わいが失われつつあります。</p> <p>そのため、空き店舗を活用した、人が気軽に集い憩える施設ができていたり、様々なイベントが定期的に行われているような、活気と賑わいにあふれた市街地を目指します。</p>	

基本方針1 賑わいを生み出すイベントや仕掛けをつくる

道路網が整備され、車社会になった現在は、人は様々なところに自由に行くことができるようになりました。また、近くのコンビニに行くにも車を使うなど、人は歩くことを忘れ家から目的地まで車で移動するようになりました。そのため、目的地としての機能が低下した市街地から、人が減少し、お店が減少してしまいました。

そこで、再び人が集まり、人が行き交う賑わいのある市街地にするためには、人に市街地に行くための目的を、また、人に市街地を歩いて移動するための目的を作り出すことが必要ではないでしょうか。

協議会が主体的に取り組む事例

地域住民を交えた賑わい創出ワークショップの開催

地域が主体的に取り組む事例

鉄道遺産(D51型蒸気機関車、転車台)を活用したイベントの実施
花絵プロジェクトの荒川会場として花絵の作製・展示
ストリートイベント/ホコテン(歩行者天国)の定期開催

個人や団体が主体的に取り組む事例

- 空き店舗を活用した
- ・若手芸術家とのコラボスペース、ミニギャラリーの開設
 - ・地域の人が自由に集まりお茶を飲んだり、時には近所のおばあちゃんが講師になったの漬物教室を開催できたりする、コミュニティ・カフェの開設



基本方針2 地域産品を販売・PRできる拠点と仕組みをつくる

多くの農家では、家族では消費しきれないほどの野菜を栽培しています。生産者の顔の見える取れ立ての野菜は、それだけでブランド品です。また、各家庭には、オリジナルな漬物や煮物など、あっとおどろく逸品があります。

金屋集落では、江戸後期より市が開かれていました。最盛期には地場産の魚や野菜、生活雑貨などを売る300以上の店が並び、また、戦後から昭和35年頃まで坂町駅前でも市が開設され、近郷近在からの買い物客で賑わっていました。

例えば、以前賑わっていた金屋市や坂町駅前の市のように、地域の人が自由に出店でき農産物などを販売することができれば……。商品を求め人が集まり賑わいが生まれるとともに、口コミなどにより販売されている商品からヒット商品が生まれるかもしれません。また、農産物等を販売しこれまでは無かった収入を得ることに、主に畑作業を担っている高齢者が生き甲斐を感じ畑作業に精を出すことで、あらかわ地区の医療費も削減できるかもしれません。

地域と協議会が協働で取り組む事例

朝市の開催

個人や団体が主体的に取り組む事例

空き店舗を活用した

・日替わり産直レストラン(チャレンジレストラン)

将来像	あらかわの大地と水が、より高度なカタチで活用され、大きな恵みと安らぎをもたらしている
<p>清流荒川や高坪山とその周辺エリア、総合運動公園とその周辺の豊かな自然は、素晴らしいまちの「財産」です。</p> <p>自然を守りながら、今よりももっと多くの人に楽しみや憩いを与えられるように活用の幅を拡げ、集客効果を上げることで多方面に恵みをもたらすことを目指します。</p>	

基本方針1 住民参加で環境の維持や利活用に取り組む仕組みをつくる

この地区には、荒川、高坪山及び総合運動公園など、他にはない素晴らしい財産があります。先人が守り残してくれた素晴らしい財産を、後世に残し伝えるために、今の私たちにはこの環境を守る義務があると思います。

荒川は釣りを楽しむ人達だけの場所でしょうか。高坪山は登山を楽しむ人達だけの場所でしょうか。昔の子ども達は、川や山を自由に駆け回り様々な遊びをしながら育ちました。昔は、川や山を上手く活用しながら、そして沢山の恵みを貰いながら生活してきました。

以前の様に、沢山の人が荒川や高坪山と接点を持つことで、荒川や高坪山の良さを再認識でき、また、大切にする気持ちが生まれてくるのではないのでしょうか。

活用しながら守る。「共に育み、共に生きる」で行きませんか。

協議会が主体的に取り組む事例

昔遊び大会

自然体験活動インストラクターの養成事業

個人や団体が主体的に取り組む事例

節電運動の取り組み

高坪山での山桜植樹活動
 鱒、鮎、鮭釣りの人をも巻き込んだ荒川クリーン作戦の定期開催
 学校林の再整備活動(山の恵み創出活動)
 里山再生活動
 各種スポーツ競技の大会誘致・開催

基本方針2 レクリエーション機能を充実させる

総合運動公園はスポーツを楽しむだけの場所？ 遠くて使いづらいなど、完成当初から住民に不評の運動公園。しかし、地区外の利用者からは、「自然に囲まれいい運動公園だね」や「使いやすい運動公園だね」などの声がかかります。それに、運動公園は高坪山の裾野に抱かれ緑に囲まれたスポーツを楽しむのには最高の環境です。

それでは、なぜ地区の人が利用しないのか？ それは、「運動公園を作ること」が目的となってしまう、本来は計画の段階で考えておくべき「誰が」「何を」「いつ」「どこで」「どんな目的で」「どのようにして」のいくつかの視点が欠けてしまい、また、作った後のマネージメントをもっていなかったためではないでしょうか。

豊かな自然に囲まれ、隣には遊歩道が整備された憩いの森が広がった、人が安らぎ・憩いを感じられる運動公園をスポーツのためだけの施設にしておくには勿体ないと思いませんか。

子ども達ももっと自由に遊べる仕組み、家族や友達同士で一日ゆっくり過ごせる仕組み、イベントが出来る仕組みや心安らげる空間となるための仕組みなどが出来たら、運動公園が人に安らぎと憩いを与えてくれる、みんなに愛される施設になると思います。

住民だけではどうにも出来ないこともあります。行政を巻き込み、みんなで運動公園の活用方法について考えてみませんか。

協議会が主体的に取り組む事例

運動公園の利活用を探るワークショップの開催
 インストラクターの養成事業

個人や団体が主体的に取り組む事例

お茶会の開催
 キャンドルナイト
 自由な遊び場「プレーパーク」の運営



将来像	住民主体のまちづくりを推進する拠点ができている
<p>地区内に様々な人達が集まれる場所や機会ができ、そこで住民主体の積極的なまちづくり活動が行われているまちを目指します。</p>	

基本方針1 住民が主体となってまちづくりを進める組織・人材を育てる

地域には、ちょっと気になる程度のものから今すぐなんとかしないとイケないものまで、様々な課題が埋もれています。これまでは、それらの課題解決を行政や区が主に担ってきました。しかし、昨今の地域社会を取り巻く環境の変化等により、行政や区だけで担うことが難しくなってきました。また、高齢者が増え、現場で活躍してくれるはずの若者は減っています。一方で、住民のニーズは多種多様になっています。多種多様な住民のニーズに応え、みんなが快適に暮らしていくには、支えあいの精神のもと、住民の皆さんが気付いたことからまちづくり活動を始めていくことが不可欠です。

まちづくりに参加するのに、何か資格や特別な能力は必要ありません。どんな人でも好きな事、得意な事があるはずで、まずは、自分の興味のある分野から参加してみてください。

協議会が主体的に取り組む事例

自主的なまちづくり活動に対する助成事業
まちあるきワークショップの開催

基本方針2 地域の声や情報を集約・共有し、応援しあう仕組みをつくる

この地域には、様々な考え・価値観を持った人、子どもや高齢者、男の人、女の人、この地域に不満を持った人、人のために何かをしたいと想っている人など、多種多様な人が住んでいます。そんな多種多様な人が、自由に集い語り合え、また、様々な取り組みの拠点になれる場所が、残念ながらこの地域にはありません。

そこで、世代を超えた人と人の繋がりが豊かになれる、そして、そこに集う人が自由に自分の考えを言えるような、いろいろな人の居場所や出番が多い、支え合いのできる拠点作りが必要と考えます。

協議会が主体的に取り組む事例

活動団体のネットワーク化
目安箱の設置

個人や団体と協議会が協働で取り組む事例

まちづくりハウスの設置・運営



将来像	多様な「学びの場」が各所にあり、地域ぐるみで人を育てる取り組みが行われている
いろいろな知識や技術を持っている人達の能力を活かして、地域内の多様な「学びの場」の創出に取り組み、地域ぐるみで子ども達や住民の「学ぶ力」「育む力」の向上を目指します。	

基本方針1 多世代が学び・集い・交流する機会をつくる

あらかわ地区には、無限の可能性を秘めた子ども達があります。第一線で培ってきた様々な知識や技術を持った人がいます。この地でよりよく生活するための知恵を持った人がいます。この様々な可能性や知識、技術を持った人たちは、あらかわ地区の宝です。この宝を埋もれさせておくのは勿体ないと思いませんか。

生涯学習という言葉があります。生涯学習とは、自分が学びたいことを学ぶだけでなく、自分が学んだことの成果を活かすことで完結するそうです。

学びたいと思う人と知識・技術を持った人が出会える場があれば最高ではないでしょうか。

それから、地域の子どもは地域で育てる。子育てが終わった世代にも、地域で子どもを育てるんだ、という意識を持って貰う。高齢者に子どもとの接点をもって貰うことは、高齢者にとっても生き甲斐につながるかもしれません。地域全体で子育てをする。それは、あらかわ地区への愛郷心を育てることにもつながると思います。

個人や団体が主体的に取り組む事例

- 寺小屋の開設
- おやじの会の結成
- 各種趣味の講座の開設



将来像	地域の特性を活かした産業を積極的に発信し、「あらかわ」が地域ブランドになっている
交通の利便性や清流に育まれた農産物といった地区の特性を十分に活かしながら、内外にアピールできる「あらかわ」を発掘・定着させていき、地域産業を盛り上げていくことを目指します。	

基本方針1 地域の特性を活かした地域ブランドの育成・開発をする

京都には京野菜というブランド化された野菜があります。このあらかわ地区にも、「荒島にんじん」や「鳥屋のねぎ苗」など、誰もが知っていた地域ブランド商品がありました。そこで、「荒島にんじん」「鳥屋ねぎ苗」を復活させ、また、その他の集落でもその土地にあった野菜を栽培し、「あらかわ野菜」として販売してみてもどうでしょうか。

このあらかわ地区には野菜だけでなく、荒川米、ユリの切り花、クロッカス、村上牛、花火大会の尺玉100連発、米坂線始発駅の坂町駅など、様々な分野で磨けば光る原石がいっぱいあります。その様々な分野であらかわの名が浸透することで、このあらかわ地区そのものがブランドになれるのではないのでしょうか。

協議会が主体的に取り組む事例

- B級グルメ開発のための料理コンテストの開催

個人や団体が主体的に取り組む事例

- 特産品開発(例:郷土料理の商品化)

地域の特性にあった農産物の栽培とブランド化

地域と協議会が協働で取り組む事例

盆踊り大会の復活

村上市の南の玄関口としての取り組みについての市への提言

基本方針2 地域をPRする多様な情報発信を促進する

「荒川」と言えば、埼玉・東京を流れる「荒川」を、また、村上の「鮭」と言えば、「三面川」を連想する人が多い。我が「荒川」には、東京の「荒川」にも「三面川」にも負けないすばらしいものがあります。なのに、何故？ それは、露出度の差。情報の発信力の差ではないでしょうか。

現在は、パソコンやスマートフォン等の普及により、誰でも、いつでもどこでも気軽に映像や音楽を楽しむことが出来るようになりました。

九州新幹線開業PRのCMや加賀温泉郷PRのCMがYouTube(ユーチューブ)で話題になり、映像だけでなくその地域そのものも注目されました。

そこで、住民を対象としたコンテスト方式で、あらかわのプロモーションビデオ(PV)を作ってみてはどうでしょうか。そして、優秀作品を協議会のホームページに掲載したりYouTube(ユーチューブ)に載せたりしてPRを図ります。そのPVが話題になれば、一気にあらかわ地区は世の中の注目の的。また、コンテストをすることで、様々な感性で捉えられたあらかわの映像を通し、ここに住んでいる人達が、今まで気づかなかった新しいあらかわを発見できるかもしれません。

協議会が主体的に取り組む事例

あらかわCMコンテストの開催

あらかわ情報発信基地(ホームページ)の運営

宝探しワークショップの開催

あらかわ情報誌(フリーペーパー)の発行

観光ガイドの養成



将来像	伝統芸能・文化が維持・継承され続け、地域の絆がより深まっている
伝統芸能などの地域文化を守っていくことは、人と人とのつながりを深め、郷土愛を育みます。これらの文化がいつまでも守られ、住民同士が絆で結ばれているまちを目指します。	

基本方針1 伝統芸能・文化を盛り上げていくための仕掛けをつくる

少子高齢化、価値観の多様化、生活様式の多様化や個人主義化など社会の急激な変化に伴い、地域行事への参加者の減少など地域住民の繋がりが弱くなり、地域

の伝統行事などの継承も難しくなっていており、中には失われたものもあります。また、季節季節に行われていた祭事などを続けている家が少なくなっています。

今が、そういった地域の伝統を継承するラストチャンスではないでしょうか。

そこで、高齢者から聞き取りをし、次世代に伝えたい地域の伝統文化・誇りを掘り起こし、それを伝承していく取り組みが必要だと思えます。

地域が主体的に取り組む事例

- 獅子舞・神楽舞の指導用ビデオの作成
- 伝承料理のレシピ集の作成と講習会の実施
- 地域暦(行事暦)の作成と住民参加の行事の復活
- 地域の特性を活かしたイベントの実施

将来像	人にやさしく住みよいまちであり続けている
子育てや高齢者の暮らしなどを支援する仕組みが充実し、住みやすい環境がいつまでも維持されているまちを目指します。	

基本方針1 誰もが健康で安心して暮らせる地域力を育む

核家族や共働きで忙しい家庭にとって、学校から帰ってきた子どもの面倒は、ちょっとした悩みのタネです。こうした家庭にとって、子どもを見守ってくれる人が身近にいることは、大きな支えになります。

一人暮らしや高齢者のみの家庭では、日々の生活に何らかの不安を抱えています。自分たちを気にかけてくれる人、見守ってくれる人がいることは、大きな安心になります。

そこで、地域を大きな家族に見立て、地域全体で「いってきます」「ただいま」「おかえり」をいいあえる関係をつくっていったはどうでしょうか。子どもを預かって貰ったり、子育ての悩みを相談したり、買い物ついでに用事を足してあげたり、除雪を一緒にしてあげたり。こんな風に、地域の絆を深めることで、そこに住む人全てが少しでも安心して暮らせる様になるのではないのでしょうか。

地域が主体的に取り組む事例

- ご近所家族化運動
- ながらパトロールの実施
- 女性防災隊の整備
- 除雪隊の実施
- 寄り合いステーションの設置
(高齢者が気軽に立ち寄れるお茶飲み場所)



個人や団体が主体的に取り組む事例

- プレーカーによる遊び広場の開設



あらかわ地区まちづくり協議会

〒959-3192 村上市山口444
村上市荒川支所 地域振興課自治振興室
TEL 0254-62-3102